

平成18年12月

竹内英二 学位論文審査要旨

主 査 大 野 耕 策
副主査 長谷川 純一
同 北 野 博 也

主論文

Nitric oxide synthase activity in human thyroid papillary carcinomas

(ヒト甲状腺乳頭癌における一酸化窒素合成酵素活性の検討)

(著者：竹内英二、北野博也、藤岡秀行、戸田 昇、北島和智、岡村富夫)

平成13年9月 Acta Histochemica et Cytochemica 34巻 207頁～212頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は甲状腺乳頭癌と一酸化窒素(NO)との関連性を調べるため、高速液体クロマトグラフィーを用いて生成したシトルリンを定量することにより間接的にではあるがNOS活性の測定を行い、またNADPHジアホラーゼ組織化学法、血管内皮型一酸化窒素合成酵素(eNOS)抗体による免疫組織化学法およびRT-PCR法を用いてeNOSの発現を検討したものである。その結果、NOS活性は良性甲状腺腫瘍、正常甲状腺組織と比較して甲状腺乳頭癌で有意に高く、eNOSの発現は正常甲状腺組織と比べて甲状腺乳頭癌において強く認められた。本論文の内容は、甲状腺乳頭癌におけるNOの関与を具体的かつ実証的に証明したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。